

第73期

平成21年4月1日▶▶▶平成22年3月31日

株主通信



株式会社 熊谷組

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

それでは第73期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出や生産は増加基調を持続し、企業収益も改善傾向を示すなど、一昨年の国際的な金融危機以後の最悪期からは着実に持ち直してまいりました。しかしながら、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど、景気回復の足取りは極めて鈍いものとなりました。

建設業界におきましては、公共投資は新政権の下で予算の一部執行停止があったものの、第二次補正後の公共投資関係費は前年度を上回るなど比較的堅調な動きもみられました。しかし設備過剰感がなお高いことや、雇用・所得環境に改善がみられなかったことから、民間設備投資及び住宅投資は低水準に推移し、総じて大変厳しい事業環境となりました。

当社グループはこのような状況のもと、お客様から必要とされ、継続的に工事を発注いただける企業であり続けるため、「誠実なものづくり」をより一層徹底するとともに、総力を挙げて業績の向上に取り組んでまいりました。

業績の詳細につきましては、5ページ以下の事業報告に記載のとおりであります。剰余金の配当につきましては、今後の経営環境を勘案し、財務体質の強化のため、引き続き無配といたしたく何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後のわが国の経済は、海外経済の改善等により持ち直し傾向にあります。雇用・所得環境が回復せず、引き続き個人消費が弱いことから、景気回復は緩やかなものに留まるものと思われまます。

建設業界におきましては、公共投資の大幅な削減に加え、住宅需要は多少の改善が期待されるものの、設備投資意欲の回復速度が鈍いことから、民間建設投資は引き続き減少が見込まれるなど、競争が一層激化するものと予想されます。

このような状況の中で当社グループは、建設市場の変化を先取りしてお客様に新たな付加価値を提供し続けることが存在意義と認識し、平成22年5月、「中期経営計画（平成22～24年度）」を策定いたしました。

本計画の主な事業戦略につきましては、次のとおりであります。

国内土木事業につきましては、公共工事縮減により競争が激化する中、受注・利益を確保することが最大の課題であります。官庁工事においては、本社による戦略的な案件の絞込みと技術センターによる技術支援機能のさらなる強化等により、総力を結集して受注競争を勝ち抜いてまいります。民間工事においては、電力・鉄道を基幹分野と位置付け、重点的な受注活動を展開いたします。さらに「リニ

リニューアル事業部」「事業創生推進室」を新設し、拡大が見込まれる維持補修市場、新規市場に対し積極的な営業展開を図ってまいります。また環境分野につきましては、グループ企業として環境修復事業を展開するテクノス株式会社との連携を一層強化し、技術営業・ソリューション営業の推進により受注拡大を図ってまいります。

国内建築事業につきましては、受注・利益を確保するため、継続的に発注いただいているお客様との信頼関係をさらに向上させてまいります。そのため「品質管理室」を設置するとともに、各部門に分かれていた設計機能を統合し、より高い水準の品質確保、設計施工比率の向上を実現してまいります。また、新築市場が減少する中、リニューアル分野はこれまで以上に広がりを見せていることから、グループのリニューアル・アフターケアの専門会社であるケアアンドイー株式会社との連携を強化し、この分野での受注拡大を強力に推進してまいります。

利益確保につきましては、競争力の源泉となる提案力、高い専門性、顧客志向性をより一層高め、受注までの利益のつくり込みに注力すると同時に、グループ各社の特色を生かした連携により、グループ全体としての利益の極大化を目指してまいります。

海外事業につきましては、カントリーリスク及び為替変動リスクを見極めながら、安定的な収益が見込める事業構造の構築を目指してまいります。

当社グループといたしましては、引き続き「お客様に感動を」をスローガンとして掲げ、より高い水準の安全と品質の確保に努め、誠実な営業、誠実な施工、誠実なフォロー、法の完全遵守を徹底し、「どこよりも信頼される誠実な企業」の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

取締役社長

大田 弘



TOPICS

裕次郎寺

3日半で国立競技場に建設しました。

平成21年7月5日、故 石原裕次郎さん二十三回忌法要「天国からのラストメッセージ『ありがとう』」が、国立霞ヶ丘競技場で執り行われました。当法要のため競技場内に仏殿（裕次郎寺）を当社の設計・施工で完成させました。



(国立競技場に姿を現した「裕次郎寺」)

仏殿は石原家の菩提寺である曹洞宗總持寺（神奈川県横浜市鶴見区）の大祖堂をモチーフにしており、建築面積426㎡、最高高さ17m（マンション5階分に相当）、幅43mとスケールの大きなものですが、わずか3日半で国立競技場に建設するという厳しい条件が、当社に課せられました。

設計に際しては、風や地震に対する安全性を一般の建物と同様とすることを前提に、總持寺さながらの厳かな雰囲気再現と短期間で仕上げられる施工性を両立させるべく、設計部門と施工部門が一体となって検討を行いました。次の準備段階においては、当社技術研究所の敷地内で何度も仮組みと解体を繰り返し、多岐にわたる項目を細部まで確認・改良し続け、特に降雨対策については法要当日が梅雨にあたるため、放水車による降雨試験を行うなど念入りなものとなりました。

本番の施工では、作業員数延べ約2,500人、使用車両数延べ約500台が動員され、降りしきる雨の中、安全を最優先に24時間体制で行い、仏殿を構成する約3,000ものパーツを事前に決めた手順どおり組み立てる作業となりました。

厳しい制約を乗



(技術研究所での降雨試験の様子)

り越え、当社の技術を集結させ完成した「裕次郎寺」は法要当日に集まった約12万人の裕次郎ファンの熱い思いを無事受け止めました。



(国立競技場にて施工中の「裕次郎寺」)



(法要当日の様子)

受賞

音カメラが「第54回澁澤賞」を受賞しました。

当社が中部電力株式会社及び信州大学工学部山下恭弘名誉教授とともに開発した音カメラが「第54回澁澤賞」を受賞しました。「澁澤賞」は電気事業の発展に大きな功績を残した澁澤元治博士の栄誉を永く記念する為に設



立された澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会が電気保安の確保に功績を挙げた個人やグループを表彰する賞です。音カメラは電力設備等の騒音に対して音源を可視化し、騒音問題の解決に功績を残したことが評価されました。

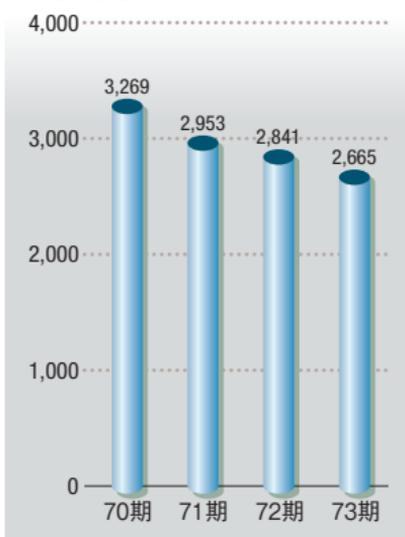
なお当社は音カメラをはじめとする音環境への研究に注力しております。たとえば当社の開発した床スラブ工法である「サイレントボイド」及び「打ち込みサイレントボイド」は、集合住宅の床衝撃音に対して高い遮断性能を有しますが、当社の施工物件だけでなく、子会社の(株)ファテックを通して広くデベロッパーに販売しており、平成21年度の販売実績は併せて約427,000m²に及んでおります。

事業報告

●連結

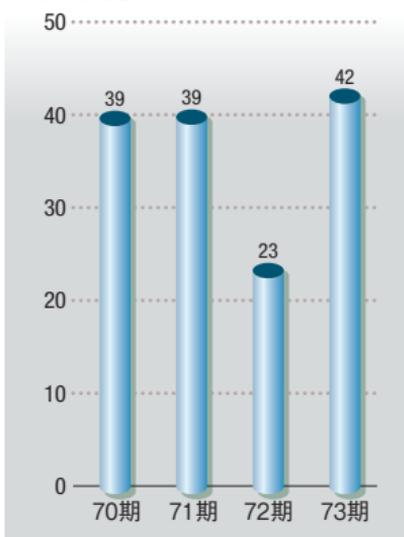
■売上高

(億円)



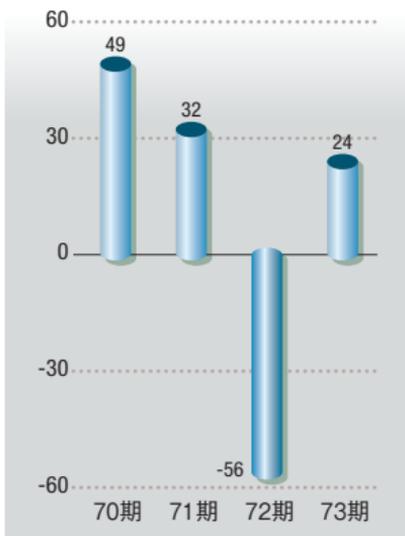
■経常利益

(億円)



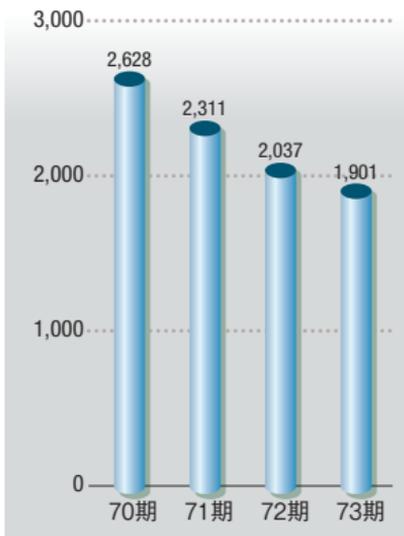
■当期純利益

(億円)



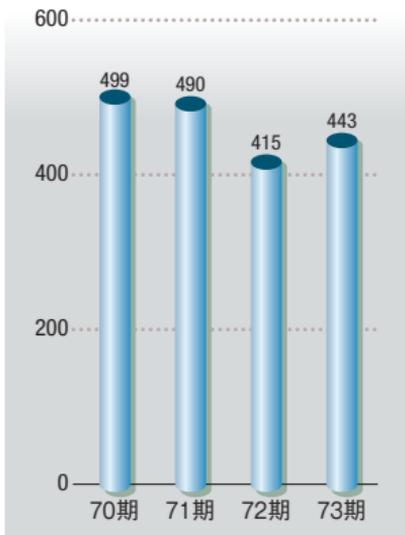
■総資産

(億円)



■純資産

(億円)



当連結会計年度における当社グループの連結業績につきましては、売上高は、繰越工事及び当期受注減の影響により、前連結会計年度比6.2%減の2,665億円となりました。利益は、建設工事の原価低減並びに販売費及び一般管理費の削減により営業利益は同17.7%増の49億円となり、また為替差損計上が無くなったことにより経常利益は同80.9%増の42億円となりました。また、特別利益に、賞与引当金の戻入益など前期損益修正益を計上し、特別損失に、期末時点の債権内容を精査して貸倒引当金繰入額を計上したことから、当期純利益は24億円となりました。

また、当社の業績につきましては、以下のとおりであります。

受注高は、国内建築工事の減少等により前年度比16.6%減の1,807億円となりました。このうち、土木工事は703億円、建築工事は1,103億円であり、これらの発注者別内訳は官庁22.7%、民間77.3%であります。また、国内、海外別で見ますと、国内工事は1,779億円、海外工事は28億円であります。

売上高は、同7.0%減の2,109億円となりました。このうち、土木工事は751億円、建築工事は1,358億円であり、これらの発注者別内訳は官庁24.0%、民間76.0%であります。また、国内、海外別で見ますと、国内工事は2,067億円、海外工事は41億円であります。

翌事業年度への繰越高は、同13.7%減の1,952億円となりました。このうち、海外工事は20億円であります。

利益につきましては、採算性向上により経常利益は同49.9%増の23億円となり、貸倒引当金繰入額の計上等により当期純利益は9億円となりました。

部門別受注高・売上高・繰越高（単体）

（単位：億円）

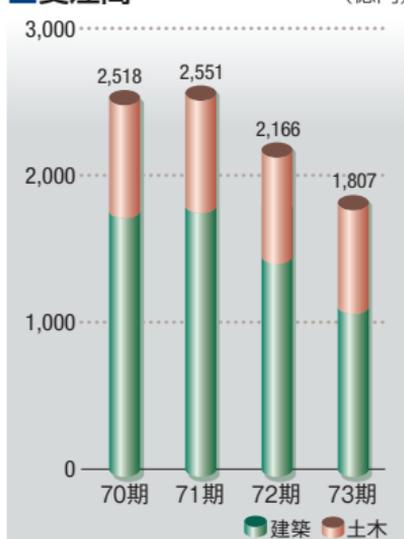
区分	前事業年度繰越高	当事業年度受注高	当事業年度売上高	翌事業年度繰越高
土木	850	703	751	794
建築	1,412	1,103	1,358	1,158
合計	2,263	1,807	2,109	1,952

（注）翌事業年度繰越高に含まれる海外工事の繰越高について、為替相場の実勢を反映させるため、事業年度末レートで修正しており、この減少額は8億円であります。

●単体

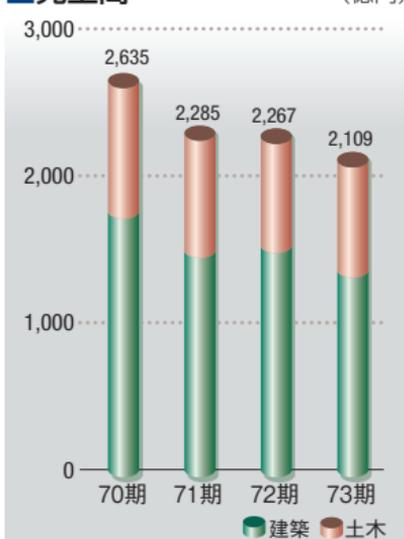
■受注高

（億円）



■売上高

（億円）



COMPLETED



〔京急蒲田駅付近連続立体交差事業〕第7工区本線土木工事（東京都）
都市高速鉄道京浜急行電鉄空港線の立体交差化工事です。当社は京急蒲田駅と糎谷駅間に位置する約680mの高架橋を既存の営業線の真上で作業する直接高架工法により施工しました。



鶴見大学附属中学校・高等学校（神奈川県）
生徒が授業時にはホームベース（生活空間）から教科教室（学習空間）に移動して学習するという同校の新しい教育システムを实践する新校舎です。自ら学習に臨むことにより自主性・主体性を伸ばし、また各教科の専門性・特色を活かした学習環境の中で勉強できるなど快適な教育空間を実現しています。



パークアクセス恵比寿（東京都）

J R山手線の恵比寿駅に近接し、都心の利便性を備えながらも閑静な邸宅地に位置するマンションです。建物も先進の住宅設備とセキュリティシステムを有し快適かつ安全な暮らしを提供しています。



KCRC ミドルロード地下道延長工事（中国）

香港地下鉄チムサチョイ駅の地下道を250m延長して既設の地下道との接続を行う工事です。観光客が多い繁華街のため歩行者の安全に努めるとともに、周辺のホテル等の営業に支障のないよう細心の注意を払っての施工となりました。

COMPLETED



エルグレース神戸三宮
タワーステージ（兵庫県）
地上29階建、総戸数174
戸のマンションです。ク
リニック、レストラン、
大浴場、オール電化など
の充実した施設・設備
が、建物のコンセプト
「暮らしに優しいタワー
マンション」を具現化し
ています。



九州新幹線加勢川橋梁（熊本県）

九州新幹線の新八代駅と熊本駅の区間内に位置する熊本市を流れる加勢川に架かる橋梁（橋梁339m、高架橋469m）です。施工に際しては高架橋が在来線と交差するため列車の運行に支障ないよう特段の配慮を要する工事となりました。



上熊谷トンネル（島根県）

広島県尾道市を起点とし島根県松江市に至る延長約137kmの中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋木次ICと吉田掛合IC間に位置する延長971mのトンネルです。



島忠ホームズ平井店（東京都）

「家具とホームセンターとの融合」で顧客の利便性を追求する株式会社島忠のショッピングセンターです。1階がホームセンター、2階が家具・インテリアのフロアとなっています。

決算の概要（連結）

●連結貸借対照表の要旨

（単位：億円）

科目	期 別		科目	期 別	
	第72期 (平成21年 3月31日現在)	第73期 (平成22年 3月31日現在)		第72期 (平成21年 3月31日現在)	第73期 (平成22年 3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	1,561	1,462	流動負債	1,397	1,210
現金預金	353	318	支払手形・工事未払金等	826	730
受取手形・完成工事未収入金等	985	985	短期借入金	251	232
未成工事支出金	106	59	未成工事受入金	131	54
繰延税金資産	21	21	預り金	86	98
その他	94	76	その他	102	94
固定資産	475	438	固定負債	224	247
有形固定資産	143	140	長期借入金	50	64
建物・構築物	28	27	退職給付引当金	173	182
土地	102	102	その他	0	0
その他	11	10	負債合計	1,622	1,457
無形固定資産	7	4	(純資産の部)		
投資その他の資産	325	293	株主資本	399	423
投資有価証券	128	126	資本金	133	133
繰延税金資産	96	95	資本剰余金	78	78
その他	99	72	利益剰余金	191	216
資産合計	2,037	1,901	自己株式	△5	△5
			評価・換算差額等	3	5
			少数株主持分	12	13
			純資産合計	415	443
			負債純資産合計	2,037	1,901

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 231億円（前連結会計年度228億円）
2. 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●連結損益計算書の要旨

（単位：億円）

科目	期 別	
	第72期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	第73期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	2,841	2,665
売上原価	2,651	2,478
売上総利益	189	187
販売費及び一般管理費	146	137
営業利益	42	49
営業外収益	4	5
営業外費用	23	12
経常利益	23	42
特別利益	9	18
特別損失	77	30
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	△45	29
法人税、住民税及び事業税	4	3
法人税等調整額	6	0
少数株主利益	0	1
当期純利益又は純損失(△)	△56	24

(注) 1. 1株当たり当期純利益又は純損失(△) 13円70銭（前連結会計年度△33円11銭）
2. 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●連結株主資本等変動計算書の要旨

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)
(単位：億円)

	株主資本					評価・ 換算 差額等	少数 株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計			
平成21年3月31日残高	133	78	191	△5	399	3	12	415
連結会計年度中 の変動額								
当期純利益			24		24			24
自己株式の取得				△0	△0			△0
自己株式の処分		△0		0	0			0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						2	1	3
連結会計年度中の変動額合計	—	△0	24	△0	24	2	1	27
平成22年3月31日残高	133	78	216	△5	423	5	13	443

(注) 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

科 目	期 別	第72期	第73期
		(平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		89	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー		23	6
財務活動によるキャッシュ・フロー		△76	△4
現金及び現金同等物に係る換算差額		△11	1
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額		24	△35
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増加・減少(△)額		0	—
現金及び現金同等物期首残高		328	353
現金及び現金同等物期末残高		353	318

(注) 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●連結の範囲について

連結子会社7社及び持分法適用関連会社4社

〈主要な連結子会社〉

株式会社ガイアートT・K (東京都新宿区)

テクノス株式会社 (愛知県豊川市)

ケーアンドイー株式会社 (東京都新宿区)

華熊營造股份有限公司 (台湾)

決算の概要（単体）

●貸借対照表の要旨

（単位：億円）

科 目	期 別	第72期 (平成21年3月31日現在)	第73期 (平成22年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		1,245	1,147
現金預金	金	234	219
受取手形	形	58	16
完成工事未収入金	金	763	778
未成工事支出金	金	77	41
繰延税金資産	産	17	15
その他	他	92	74
固定資産		389	350
有形固定資産		95	93
建物・構築物	物	16	15
土地	地	75	75
その他	他	3	2
無形固定資産		3	2
投資その他の資産		290	254
投資有価証券	券	78	75
関係会社株	式	33	33
繰延税金資産	産	71	69
その他	他	106	75
資産合計		1,634	1,498
(負債の部)			
流動負債		1,203	1,033
支払手形	形	329	258
工事未払金	金	350	330
短期借入金	金	247	230
未払入金	金	35	37
未成工事受入金	金	107	44
預り金	金	78	93
その他	他	53	38
固定負債		201	225
長期借入金	金	50	64
退職給付引当金	金	150	159
その他	他	0	0
負債合計		1,405	1,258
(純資産の部)			
株主資本		223	233
資本金	金	133	133
資本剰余金	金	78	78
利益剰余金	金	15	24
自己株式	式	△4	△4
評価・換算差額等		5	6
純資産合計		229	239
負債純資産合計		1,634	1,498

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 116億円（前事業年度115億円）
2. 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●損益計算書の要旨

(単位：億円)

科 目	期 別	第72期	第73期
		(平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売 上 高		2,267	2,109
売 上 原 価		2,129	1,973
売 上 総 利 益		137	136
販売費及び一般管理費		112	104
営 業 利 益		24	31
営 業 外 収 益		14	5
営 業 外 費 用		23	12
経 常 利 益		15	23
特 別 利 益		6	17
特 別 損 失		73	28
税引前当期純利益又は純損失(△)		△50	13
法人税、住民税及び事業税		△0	△0
法 人 税 等 調 整 額		8	3
当期純利益又は純損失(△)		△58	9

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は純損失(△) 5円39銭(前事業年度△34円25銭)
2. 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

●株主資本等変動計算書の要旨

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：億円)

	株主資本					評価・ 換差額等	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資 本合計		
平成21年3月31日残高	133	78	15	△4	223	5	229
事業年度中の変動額							
当期純利益			9		9		9
自己株式の取得				△0	△0		△0
自己株式の処分		△0		0	0		0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						0	0
事業年度中の変動額合計	—	△0	9	△0	9	0	10
平成22年3月31日残高	133	78	24	△4	233	6	239

- (注) 金額の億円未満は切り捨てて表示しております。

役員の状況 (平成22年6月29日現在)

取締役及び監査役

取締役社長 (代表取締役)	大田 弘	常務取締役	草桶昌之
取締役副社長	高木秀宣	常勤監査役	矢崎文夫
専務取締役 (代表取締役)	新井克人	常勤監査役	櫻井秀人
専務取締役	船本隆則	監査役	小嶋正己
常務取締役	佐塚和夫	監査役	篠原啓慶
常務取締役	石垣和男	監査役	垣見 隆

(注) 監査役小嶋正己、篠原啓慶及び垣見 隆の各氏は社外監査役であります。

執行役員

※執行役員社長	大田 弘	常務執行役員	作本裕行
※執行役員副社長	高木秀宣	常務執行役員	森次誠治
※専務執行役員	新井克人	常務執行役員	永島 仁
※専務執行役員	船本隆則	執行役員	牧野有孝
専務執行役員	武田和夫	執行役員	佐藤精一
専務執行役員	市川康生	執行役員	栗林棟一
専務執行役員	吉川 定	執行役員	樋口 靖
※常務執行役員	佐塚和夫	執行役員	田代静夫
※常務執行役員	石垣和男	執行役員	堀田俊明
※常務執行役員	草桶昌之	執行役員	大島邦彦
常務執行役員	田中修市		

(注) ※印は取締役兼務であります。

会社の概要 (平成22年3月31日現在)

創業	明治31年1月	資本金	133億4,116万2,615円
設立	昭和13年1月	従業員数	2,502名

主要な営業所等

本店

福井市中央2丁目6番8号
〒910-0006 TEL (0776) 21-2700

東京本社

東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL (03) 3260-2111

北海道支店

札幌市中央区南1条西6丁目11番地
〒060-0061 TEL (011) 261-7271

東北支店

仙台市青葉区上杉5丁目3番36号
〒980-0011 TEL (022) 262-2811

首都圏支店

東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL (03) 3260-4750

名古屋支店

名古屋市中区栄4丁目3番26号
〒460-8402 TEL (052) 238-3011

北陸支店

金沢市小金町9番18号
〒920-8721 TEL (076) 253-3100

関西支店

大阪市西区靱本町1丁目11番7号
〒550-0004 TEL (06) 6225-2226

中四国支店

広島市中区大手町4丁目6番16号
〒730-0051 TEL (082) 241-3222

九州支店

福岡市中央区大手門1丁目4番1号
〒810-0074 TEL (092) 721-0011

国際支店

東京都新宿区津久戸町2番1号
〒162-8557 TEL (03) 3235-8639

技術研究所

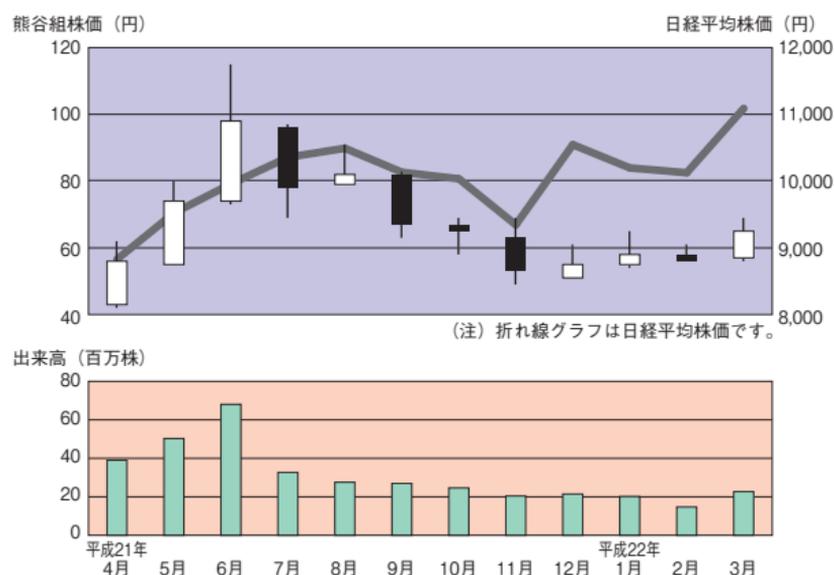
つくば市鬼ヶ窪1043番地
〒300-2651 TEL (029) 847-7501

海外拠点

中国（香港）、台湾、ベトナム、スリランカ

(注) 平成22年3月31日付をもって四国支店を廃止いたしました。

株価／出来高の推移 (平成21年4月～平成22年3月)



株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

証券会社に口座を開設されていない株主様は、次頁の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である次頁の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、次頁の電話照会先をお願いいたします。

単元未満株式の買増請求のお取扱いについて

単元未満株式（1,000株未満の株式）をご所有の場合、その単元未満株式数と併せて単元株式数（1,000株）となる株式数について、当社に買増請求をすることができます。お手続きの詳細につきましては、証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社に、証券会社に口座を開設されていない株主様は、次頁の電話照会先にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日 そのほか必要あるときは、あらかじめ 公告して定めた日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(インターネット ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/ STA/retail/service/daiko/index.html
公告の方法	当社のホームページに掲載します。 < http://www.kumagaigumi.co.jp/ > ただし、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告をすること ができない場合は、日本経済新聞に 掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所

ご希望の方には「くまがいニュース2010DVD」をお送りします

「くまがいニュース」は各年度における施工実績、最新の技術、表彰案件など当社の事業活動を紹介するものです。

ご希望の方はメールまたはFAXで「くまがいニュース2010DVD希望」と書き、送付先の郵便番号、住所、氏名を下記当社「くまがいニュース2010DVD」請求先までお知らせください。

なお、お知らせいただいた個人情報は、「くまがいニュース2010DVD」の送付のみに使用させていただきます。

「くまがいニュース2010DVD」請求先

(メールアドレス) info@ku.kumagaigumi.co.jp

(FAX) 03-5261-3716

表紙写真：学校法人片柳学園 再整備による蒲田新キャンパス（東京都）

JR京浜東北線蒲田駅に近接する東京工科大学と日本工学院の新キャンパスです。学校法人片柳学園の都内新規拠点としての役割を担っています。

